

平成 30 年度第 1 回岩手県政策評価専門委員会

(開催日時) 平成 30 年 7 月 27 日 (金) 13 : 30～15 : 00

(開催場所) 岩手県公会堂 2 階 21 号室

1 開 会

2 議 事

(1) 平成 29 年度主要施策の成果に関する説明書の作成状況について

※情報提供：復興実施計画の施策体系・事業に基づく進捗状況

(2) その他

3 閉 会

委員

吉野英岐専門委員長、遠藤一子委員、小野澤章子委員、工藤昌代委員、
西田奈保子委員

1 開 会

〔配付資料確認〕

〔事務局から委員 6 名中 5 名の出席により会議が成立する旨の報告〕

○竹澤政策推進室評価課長 それでは、条例の規定によりまして、会議の議長につきましては、専門委員長の吉野委員長にお願いしたいと思っております。

2 議 事

(1) 平成 29 年主要施策の成果に関する説明書の作成状況について

○吉野専門委員長 それでは始めたいと思っております。委員の皆様におかれましては、お暑い中お集りいただきまして、ありがとうございます。

お手元の資料にありますとおり、議事に入りますが、議事の(1)について、まず一括で説明いたします。その後、意見、質問をいただくこととしております。

それでは、議事に載っておりますとおり、平成 29 年度主要施策の成果に関する説明書の作成状況について、事務局より説明をお願いいたします。

〔資料No. 1 に基づき説明〕

○吉野専門委員長 ありがとうございます。

それでは、同じ項目、情報提供ということで、復興実施計画の施策体系・事業に基づく推進状況ということがございますので、こちらについては復興局からご説明をいただきたいと思っております。

〔資料No. 2 に基づき説明〕

○吉野専門委員長 ご説明ありがとうございます。

それでは、ここからは委員による協議に入りたいと思います。前段でご説明いただきました主要施策の成果に関する報告書、いわて県民計画実施状況報告書の概要が中心になりますけれども、ご説明についての質問、ご意見をいただければと思います。

では、お願いします。

○工藤委員 A3判の概要版の4番の7つの政策の具体的な推進方策の状況についてですが、まず第1点目のところの産業・雇用のところ、ホームページのアクセス数、スマートフォンの端末からのアクセス数が減少したためという分析をされているようなのですが、A4判の本体の中の、例えば19ページのほうを見ると、海外からのアクセスがすごく増えていて、でも日本からのアクセスが減っているので、結果的に全体のホームページのアクセス数が減っているのかなと思います。その分析の方向性というか、スマートフォンのアクセスが減っているから、思うようにいかなかったからなのか、それとも日本に対するアクセスが、情報発信がうまくいかなかったのかというところの分析を伺いたいです。

○吉野専門委員長 では、担当課からお願いします。

○阿部商工企画室企画課長 商工労働観光部の阿部です。今の件でございますけれども、19ページの表のとおり、日本語版のアクセス件数が減っているということは事実でございます。一般に、観光客の入り込み数の減少については、台風被害や雪不足など、様々な要因が挙げられ、これらの要因も関係し、本県の観光分野に対する情報検索意欲が減っていることも可能性の一つとして考えられます。他方では、今、情報を集める際にスマートフォンの所有数が増えているということもあり、どの端末からアクセスしたかというものを分析すると、スマートフォンからのアクセス件数が減っている状況も見えてきました。このことについては、観光ホームページがスマートフォンに対応する機能が当時導入されていなかったため、検索しづらかったということなど、さまざまな要因があるかと思っておりますので、今後さらに分析を深めていきたいと思っております。

○工藤委員 ちなみに、この観光サイトというのは、岩手の観光ホームページへのアクセス数という感じですか。

○阿部商工企画室企画課長 はい、御指摘のとおりです。

○吉野専門委員長 そのほかお気づきの点があれば、お願いします。

では、西田委員お願いします。

○西田委員 ご説明ありがとうございました。

3番のアクションプラン〔政策編〕の達成状況のところの(1)と(2)の記載なのですが、医療・子育て・福祉分野では40%の指標が遅れ傾向があるということと、それから具体的な推進方策のほうでも医療・子育て・福祉分野は25%が遅れ傾向があるとい

うことなのですけれども、これの遅れている指標に何か同じような傾向があるのかどうかというところにつきまして、何で遅れているということは同じような傾向があるのか、あるいは全くないのかということをお教えいただきたいと思っております。

○吉野専門委員長 では、担当課からお願いします。

○中野保健福祉企画室企画課長 保健福祉部の中野でございます。

今同じような傾向が出たというお話でございました。そののところについては、例えば目指す姿の関係では障がい者のグループホームの整備と申しますか、医療の関係の指標がございまして、それがDになっているというところがあります。ここにつきましては、いわゆるグループホーム、土地とか、あとは物件が不足している地域的な事情があったりして、結果的に利用者数が伸び悩んでいるとかというお話もございましたし、あとは同じようなハード系の話であれば、介護の関係とか施設の建設の関係と申しますか、というところがあるのですが、この辺のところはやっぱり人手が不足していると申しますか、人材不足とか、あとは建設費の高騰などの問題はありますが、そのほかの部分については、やはり同じような傾向があるというところまでではないかなというふうに思っているところでございます。

○竹澤政策推進室評価課長 本体のところだと、81 ページに、今の話が掲載されております。

○吉野専門委員長 補足がありましたが、報告書のほうの 81 ページに載っています。お分かりいただけましたでしょうか。

○西田委員 はい。

○吉野専門委員長 ほかの委員の方もお分かりいただけましたでしょうか。そのほかいかがでしょうか、一つ一つのところでも結構ですので、ご質問があれば受け付けます。

では、小野澤委員、お願いします。

○小野澤委員 先ほどの政策 I の観光関係の閲覧の減少、言語と、普通はパソコンかスマートフォンかということなのですが、やはり、どういう方にその情報を届けるかというのは対象者というか、誰に対して情報を発信するのかということが合っていれば高くなるし、合っていなければ下がるということかなと思うのですけれども、スマートフォンで観光情報を見る人自体がどういう人なのか、年齢であるとか、旅行を計画している人なのかという、そのほかの側面でどういう人がスマートフォンの端末からアクセスしているのかとか、そういったことは分かるものはあるのでしょうか。

○吉野専門委員長 担当課、お願いします。

○阿部商工企画室企画課長 スマートフォンの利用者、ホームページへのアクセスするのはどういった方々がアクセスされているかということをございますけれども、最近のスマートフォンは高齢者の方も使えるようなものもありますが、どういった年齢構成の方がアクセスされているかということの分析までは残念ながらやっていないところではあります。例えば若い方や高齢者の方によって、それぞれのニーズがあるかと思しますので、さまざまな観光ニーズに合ったものをわかりやすくお伝えするなど、発信の仕方を考えているところをございます。

○小野澤委員 多分パソコンを使う方とスマートフォンを使う方が同じ観光情報で岩手の情報を集めるといっても年齢とか目的が違っているので、これが多くないということは多分こういう方に合った情報が出ていないという面がどうしても想定されるかなと。私が勤めています大学でも単純にウェブサイトの情報をウェブで見られるようにしても高校生は見ないということで、どうしても別の情報をちゃんと上げないとだめだというような話がありまして、もちろん観光情報ということで共通している面はあるかと思うのですが、これからそういうスマートフォンのようなモバイル端末で情報発信できるような情報を上げていって関心を持ってもらう方を増やすようなことが必要かなというふうに感じました。以上です。

○吉野専門委員長 そのほかいかがでしょうか。
西田委員、お願いします。

○西田委員 平成30年度の最終目標に対する進捗状況のところなのですけれども、進捗率が75%以上となっている指標数というのは全体で見ますと、具体的な推進方策のほうでみんな目指す姿指標よりもパーセント的に上回っているという状況で、ただ7つの政策分野で見ますと、産業・雇用と環境のほうについては、県が主体となって、具体的に取り組む施策のほうの具体的な推進方策のほうが目指す姿よりもパーセントが低くなっている傾向があるということなのですけれども、こちらのほうはどの辺が具体的な県の取り組みとしてうまくいかなかったのか、その点をどのようにすれば変化させていけるのかというあたりを教えていただければと思います。

○吉野専門委員長 産業・雇用の担当課、よろしいでしょうか。質問わかりますか。

○阿部商工企画室企画課長 具体的な推進方策の進捗率が低い状況ではありますけれども、ちょっと時間をいただきまして改めてご説明いたしたいと思います。

○吉野専門委員長 では、ちょっとお時間差し上げますので、整理してお答えいただければと思います。

そのほか、ほかの政策分野でもいいのですけれども、ご質問あればお受けしたいと思います。

では、引き続き西田委員。

○西田委員 目指す姿よりも具体的推進方策のほうが進捗率 75%以上の指標が少ない分野は、もう一つ環境分野がそうなのですけれども、こちらについても原因などがありましたら、教えていただければと思います。

○吉野専門委員長 今日目指す姿ですと環境分野は 75%以上が達成できたのが 80%あるのですが、具体的な推進方策になると 75%以上達成しているのが 50%に下がってしまうということについて、担当課からお願いします。

○高橋環境生活企画室企画課長 環境生活企画室の高橋でございます。資料は本体の説明報告書の 204 ページ、ここに環境の指標の一覧、204 ページのところにありまして、網かけになっている部分が目指す姿指標、それから具体的推進方策指標の部分が白抜きの部分になってございます。先ほど質問のありました件の原因や分析につきましては、現時点では分からない部分もありますので、今後の政策評価に向けて分析していきたいと思っております。

○吉野専門委員長 基本的には具体的な推進方策がうまくいってれば、目指す姿は達成できるはず、あるいはその逆もあつたのですけれども、より上位、より下位、指標数が少ないほうがより上位とすれば、たくさんある指標数をうまく生かせば、より上位に置いてあると思われる目指す姿が達成されるはずなつたのですけれども、環境について言うと、具体的な推進方策のほうは達成率が低いのに、より上位だと思われる目指す姿のほうは達成できているというあたりの指標間のつながりの弱さが若干あるのではないかとつたようなことだと思つたいますが、西田先生いかがでしようか。

○西田委員 そうなつたのですけれども、今まで何回かお伺いしましたときには目指す姿指標と具体的な推進方策のほうで差があるときに、目指す姿指標のほうは県以外の主体の取組や社会環境要因などが影響してくるから、県として頑張つて取り組んでいつても、なかなかつたがない部分があることもあつたご説明いただつたと思つたのですけれども、今回は、産業と環境については、パーセントとして逆転しているつたので、県としてどうつたうふうに達成度が低い部分について取り組んでいこうつたうふうに思つたおられるのか、教えていただければと思つたいます。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。

特に環境分野になると、具体的な推進方策、つまり県の頑張つたりなつたのでしようか、県として目標を立てて、県として達成できる状況にある指標分の達成状況が余りよろしくないつたうか、50%と出ている一方、目指す姿指標は高い数値なつたので、県としてこれに対しての対応つたうことはいかがでしようか。

○竹澤政策推進室評価課長 環境分野の個別の説明は後ほど担当課のほうからさつたていただきますけれども、数値の見方について、若干の補足説明をさつたていただきたいと思つたいます。

最終年度の目標値に対して、進捗率が75%以上のものを目安としてここに掲げているのですけれども、指標によりましては最終年度に数値が大きく上がることを想定している指標もありましたり、単純に25%、25%、25%といくものだけではないということもお含み置きいただければと思います。

例えばA3判の右側の7つの政策の環境のところですが、概ね達成以上の割合が83.3%ということございまして、29年度の目標値に対する達成状況で言うとそんなに低い数字ではないということがございました。

○吉野専門委員長 つまり来年度は上がる可能性のある数値も入っているということですので、今の段階でこれが非常に悪いとまでも言い切れないと。

○竹澤政策推進室評価課長 数値の見方としてそういうこともあるということで、あと個別には担当課のほうから説明ございますので。

○吉野専門委員長 では担当課、どうぞ。

○高橋環境生活企画室企画課長 今のことでございますが、205ページのところで、先ほど見ていただいた表のところでございますが、205ページの2つ目の項目が進捗率ということになっております。従いまして、7割から6割ぐらいというところでございますので、次はさらに上昇させることができると考えています。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。

では、先ほど整理することとしていました観光について回答いただけますでしょうか。

○阿部商工企画室企画課長 産業・雇用分野で幾つか、県の取組の進捗率と目指す姿に、御指摘のような傾向があるとのことですが、例えばではございますが、冊子のほうの7ページをお開きいただければと思いますけれども、産業・雇用の30年度目標に対する目指す姿指標の状況でございます。これの下から3番目のところに「沿岸部の市町村における営業再開した商業・サービス業者の本設移行率」というものがあり、仮設店舗で営業再開されていた方が本設に移行されたというような事例でありますけれども、これは140.3%ということで目標は達成しているということでもあります。例えばこれにかかわることとなりますと、35ページをお開きいただきまして、こちらのほうは中小企業の方々に対する支援を書いているところでございますけれども、この中の(5)、産業支援機関による伴走型支援の推進という具体的な推進方策指標というのがあります。こちらのほうは、達成度はDとなっているのですけれども、これについては、一つ一つ個別の企業さんに何度も支援をする、いわゆる「伴走型支援」と言われますが、回っている企業の件数はそれほどではないのですけれども、一つのところに深く入っていくというような手法を採用しております。その結果、例えば仮設から本設に移行する方々もいらっしゃるということで、県の具体的な推進方策はDなのだけれども、様々な支援を深く行ったことによって、結果としては、例えば本設移行に至ったというような事例があります。特に産業・雇用分野においては、一

例としてお示ししましたが、被災事業者等へのそれぞれの支援が、相互に結びつく中で影響しあって、県の具体的な推進方策よりも目指す姿指標の進捗率が高くなってしまった、御指摘のような傾向も発生するものと分析しております。

○吉野専門委員長 そのほかございますか。

工藤委員。

○工藤委員 9ページの国際競争力の高いものづくり産業の振興の目指す指標というところで、製造品出荷額が28年度の実績値は測定できなかったということなのですが、通常はずれて出たりとか、またはこれからも数字としては出てきてくるのでしょうか。

○竹澤政策推進室評価課長 こちらの製造品出荷額につきましては、工業統計とか経済センサスで数値を把握しているのですが、大きな項目レベルの数値ですと28年度の数値はもう既に公表になっているのですが、ここに掲げております運送用機械、半導体製造装置、電子部品・デバイス等、細かい分類の数値になっていくと公表時期が遅れてしまいまして、今回数値が把握できないという記載になっておりますけれども、後日ここは埋まります。

○吉野専門委員長 そのほか遠藤委員、もしあれば。

○遠藤一子委員 私ごとなのですが、先ほどの205ページの環境のところ、下から3行目の部分ですか、旧松尾鉱山があるのですが、中和処理をなさっていただいているのですが、あれは24時間365日やっているわけなのですが、半永久的に行っていかなければいけないことなのでしょうか。

○吉野専門委員長 担当課をお願いします。

○高橋環境生活企画室企画課長 環境生活企画室の高橋です。

今ご指摘いただきました松尾鉱山でございますが、酸性の非常に強い鉱毒水がずっと湧き出ております。これはきちっと中和処理しないと、昔の北上川に戻ってしまうということございまして、処理を継続して行っていくということでございます。

○吉野専門委員長 そのほかは何かありますか。

小野澤委員。

○小野澤委員 全体にうまくいっていないところに人材難とか人手不足とか、そういうことが目標達成できなかった背景にあるというコメントが何か所か出てきたかと思うのですが、これから人口減少時代で、特に就労したり担い手になる人たちも増えていくということはなかなか難しい中で、政策目標を立てる段階で人がいないということを前提に立てなければいけない時代にもうなっているのかなと思うのですが、今後の見込みとい

うか、その部分について、来年度から新しくなるということもあるけれども、たくさん人が集まるとか、担い手を増やすとか、そういう目標を立てること自体もしかしたら無理がある時代が近づいているのではないかなという感想を持ったのですが、その辺どうお考えか、ちょっと伺いたいと思います。

○竹澤政策推進室評価課長 全体にかかわるお話ですので、私のほうからご回答させていただきたいと思います。

総人口が減少していく中で、新たに労働に参加してくれる高齢者の方ですとか、女性の方が増えない限りは、労働力人口は減少していくことはまず確実で、また今後外国人労働者の方がこれからどれだけ入ってきていただけるのかというのが非常に大きな要素だと思います。今の状態で考えるならば、労働力人口は減少していくだろうということは間違いないのかなと思われまます。一方でIT技術ですとか、さまざまな技術革新で生産性が向上していくことも予測されておりますし、またそれに向けた取り組みを進めていかなければならないという中で、そういったことを加味しながら、次期総合計画をつくっていかねばならないかなと思っています。現実的な足元の数値を見ながら、ただ一方で悲観的にならずに、楽観的にもならずやっていくしかないのかなと考えています。

○吉野専門委員長 はい。

○小野澤委員 労働力人口も、人口全体も減少している中で、よりよい施策というのは何かというのを考えていくことが必要かなというふうに私も思いました。

以上です。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。

そのほかいかがですか。

「なし」の声

○吉野専門委員長 私から少しご説明いたします。

政策のVIの環境のところなのですけれども、達成度がDの指標が2つあって、一つはいわての森林づくり県民税による強度間伐実施面積、もう一つが三セク鉄道・バスの一人当たり年間利用回数ですが、実は両方とも再掲項目で、環境さんにとってはなかなか所管していないところなのかなと、例えば農林水産業や公共交通の分野でも同じ指標が出てきますし、例えばこれについては所管課に聞いたほうがいいのですか、それとも環境のほうに聞いたほうがいいですか。

○竹澤政策推進室評価課長 個々の事業につきましては、それぞれの所管課に聞いていただいた方が良いでしょうと思います。

○吉野専門委員長 では、2つだけ聞きましょうか、ちょっと環境さんにはかわいそうだ

などと思うけれども、所管課は別のところにあるので、まず間伐のほうはいかがでしょうか。

○照井農林水産企画室企画課長 農林水産部です。

まず、環境の部分に森林のことが掲載されていると。森林のほうというのはCO₂吸収とかの貢献がありまして、そこは環境政策に貢献するという形で農林水産部所管の事業であります。環境の部分に再掲として掲載してございます。

その中で、いわての森林づくり県民税による強度間伐実施面積については、普通の間伐は全体の2割ぐらいの面積を間伐するのですが、この強度間伐は、少し強めに全体の5割ぐらい間伐しており、その作業を増やしていこうという取り組みでございます。この取り組みにつきまして、実は復興工事と関係がありまして、伐採作業をする方というのはある程度限られるものですから、復興事業の需要の増によりまして、伐採作業を行う人材がとられることによりまして、間伐作業が伸び悩んだということで、評価はDとなっているところでございます。

○吉野専門委員長 今後は回復する見込みということでしょうか。

○照井農林水産企画室企画課長 復興事業が大分落ち着いてきておりますので、今後はこの強度間伐の面積が少しずつ増えていくかなと思っております。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。

では、政策地域部、指標の達成度がDになっている背景あるいは今後について説明願います。

○千葉政策推進室主任主査 政策地域部でございます。

まず、バスについてですけれども、やはり特に沿岸部を中心としまして、人口の減少ですとか、少子化あるいは自家用車の普及などが原因となりまして、利用率が低下しているところと思います。

バスの路線等の一部見直し、維持につきましては、平成30年の4月に協議会を立ち上げまして、現在、地域公共交通網形成計画の策定に取り組んでおりますので、そうしたことで全県的な、効率的な利便性の高い交通ネットワーク網を構築することでバスの利用率を高めていくということを今、進めているところでございます。

あと三セクについてですけれども、三陸鉄道を例にしますと沿岸部は人口減少、少子化が進んでいますので、利用率や乗車数なども低下しているところになるかと思えます。今後の対応としましては、平成30年度末にはJR山田線、宮古釜石間が経営移管され、2019年につきましては、釜石でラグビーワールドカップの開催、あるいは県で進めております三陸防災復興プロジェクト2019がございまして、そういったイベントを契機としながら、あるいは沿岸住民の方々の地元利用の促進を図りながら、利用促進に努めていきたいと考えています。

○吉野専門委員長 しっかり対策を打って、目標達成年度までにできるだけ目標に近づけ

るように政策を進めていただければと思います。ありがとうございました。

ほかにありますか。

「なし」の声

○吉野専門委員長 特になければ私からですが、今回の実績測定評価は、数値で判断します、結果ですのでね。判断自体が間違っているとは言えない。こういう事実であると、現状がこうであるということなので、私たちはその背景やら今後の見込み等々をお聞きして、30年度、今年度が最終年度ですね、現行計画の。ですので、今75%基準で4年分の3年目だからということですから、来年度は最終的な評価をしていくことになるということですので、これに向けて、できる限りの対応をしていただくことが1つだと思っています。

もう一つは、これは新しい総合計画ですが、新しい計画が今策定に向けて動き出していて、担当の皆様には両方していかなければいけないので、ちょっと作業量が増えていると思うのですけれども、新しい計画をつくった後も新しい評価をどうするかと、またいずれ課題になってくると思います。

今回は、このように目指す姿と具体的な推進方策をつくっていただいて、その達成状況をそれぞれ判定していただいて、どれがどのぐらいできているかと、分野ごとにまた出していただいておりますけれども、幾つか議論の途中でもあったのですけれども、具体的推進方策指標は全てうまくいっているのに、なぜか上位指標になるとうまくいっていないと、先ほど出た観光なんかその一つかと思うのですけれども、例えば16ページ、17ページの具体的な推進方策で、例えば(1)で観光地モデル数、モデル事業、モデル数はきちんと達成していらっしゃるし、その下の推進方策を構成する事業実績もおおむねみんなAです。その次のページの観光人材育成というのも、研修会参加もAというふうに、そこは非常によくやっついていらっしゃると思うのですが、さっきホームページアクセス数だけが悪いと思いませんけれども、その前に出てくる目指す姿指標、16ページのところがいわゆる入り込み客数や宿泊者数は残念ながら目標値には届いていないようだ。そうすると本当に県としては一生懸命一個一個のことは頑張っているのだけれども、肝心の最後のお客様の数がなぜか増えないということは指標間の連携、連絡が十分ではないのか、あるいは別の考え方、ものを入れてしまっているために、この下の指標がうまくいったからといって、それが直接的に上に反映しないのもあるのかなというところが幾つか出てきておりますので、恐らく一生懸命やっているのだけれども、結果が出ていないということについて、どういうふうに今度考えていくべきなのかということも今後はもしかしたら必要になるのではないかなと思っています。

当面は両方Aになるように一生懸命頑張ってくださいということになると思いますが、評価委員会としてもそういう頑張りで吸収できない部分があるのかもしれないというところも幾つか、今は観光のところだけ例で挙げてしまって申し訳なかったのですけれども、ほかのところ、例えば男女共同参画サポーターの数はちゃんと増えているのに、その上位だと思われる委員の男女別構成割合がなかなか目標値に届かないと、一步一步は人を育てていっているの

だけれども、最終的にそれは委員会の男女構成比まで反映できているかというところ、どうもそういうふうにはうまくまだつながっていない。両方Aが一番いいけれども、申し上げたとおり、構造的に連結が少し弱いのかどうかも含めて考えていかなければいけないところかなと思っています。

もう一つはインターネット利用率も非常に悪いのだけれども、184 ページにあるICTのサービス開始数はむしろAだから、そういうふうの一つ一つはうまくいっているところも結構あるのですけれども、最終的なところで数値がうまくつながってこない。

私のほうからは気づいた点は以上ですけれども、委員の皆様はよろしいですか。

工藤委員。

○工藤委員 教えていただきたいのですけれども、177 ページの社会資本の維持管理と担い手の育成・確保の目指す姿指標の96番、建設企業が県の支援制度を利用して新分野等に取り組む企業数という指標があるのですけれども、なぜ建設企業が新分野に取り組むというのが目標になっているのかなというのをちょっと伺いたいと思います。

○吉野専門委員長 では、県土整備部からお願いします。

○嵯峨県土整備企画室企画課長 県土整備企画室の嵯峨と申します。この指標につきましては、今は復興事業ということで建設投資が非常に大きい状況でございますけれども、全国的な傾向として、震災前までは建設投資が下がってきているということで、それに伴って経営基盤を強化していくためにどうしていくかという方策の一つとして、建設業をやりながら、何かほかの農業分野に進出するといったような取組を進めていこうというトレンドがございまして、今も基本的にはそういう流れはそのまま続けているということでございます。

ただ、指標の達成度といたしましては、C（やや遅れ）という状況になってございます。これは、今は非常に復興事業等で建設企業は忙しい状況でございますので、そういった他分野にというマインドが働いていないというような状況でございます。将来的にはまた復興事業はこれからどんどん下がってくるということなので、将来を見据えればこういう考え方も一つは必要だと考えてございます。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。

ほかはよろしいですか。

「なし」の声

○吉野専門委員長 それでは、全般的には書いてある数字のとおりだと思いますので、あとさらに半年間、現在の県民計画完成年度に向けてできる限り数字を達成していただけるように取り組んでいただきたいと考えています。

（２）その他

○吉野専門委員長 それでは、1の(2)に移りたいと思います。
その他、委員の皆様からいかがですか。よろしいですか。

「なし」の声

○吉野専門委員長 なければ、事務局のほうからお願いします。

○竹澤政策推進室評価課長 次回の専門委員会でございますけれども、10月下旬から11月上旬にかけて開催したいと考えております。

日程調整につきましては、後日委員の皆様には照会させていただきますので、よろしくお願い致します。

また、次回の専門委員会の公開・非公開につきまして、できればこの場で決定していただけるとありがたいなと思っております。

○吉野専門委員長 現状は非公開ということですね。

○竹澤政策推進室評価課長 はい。

○吉野専門委員長 今回は非公開。

○竹澤政策推進室評価課長 はい。

○吉野専門委員長 その理由としては一言で言えば。

○竹澤政策推進室評価課長 まだ意思形成過程のため、県議会に提供していない資料でもございますので、今回も非公開ということで開催させていただいておりますし、次回も差し支えなければ非公開という形で開催させていただければと思っております。

○吉野専門委員長 同じ事情であるということですね。委員の皆様、よろしいですか。

「はい」の声

○吉野専門委員長 特にご異議ないようですので、次回も同じ事情により非公開という形での会議とさせていただきます。ご理解ありがとうございます。

それでは、そのほか何か委員から言っておきたいことがあればお願いしたいと思っております。よろしいですか。

「なし」の声

○吉野専門委員長 それでは、特に委員からご意見ないようですので、議事のほうはこれ

で終了させていただきます。ありがとうございました。

では、事務局お願いいたします。

○竹澤政策推進室評価課長 大変熱心なご議論をいただきまして、ありがとうございました。

3 閉 会

〔事務局から閉会宣告〕